

宮之浦岳

2006.11.3~11.7

4名

11月3日

伊丹から飛行機で鹿児島にはいり、時間待ちに「おはら祭り」(当地の二大祭りのひとつ)を見学し、13:10のトッピーに乗り込みました。ガスを買ひ、益救神社にお参りをしてから、夕食にとびうお料理に舌鼓をうち、明日に備えました。

11月4日

淀川登山口—淀川小屋—花之江河湿原—黒味岳(往復)—宮之浦岳(大休止)—永田岳—鹿之沢小屋(泊)
(6:00) (6:45) (12:42) (16:00)

5時にタクシーに乗り込み淀川登山口下車。まだ外は暗く、星空がきれい。夜が白みかけた5時59分、ヘッドランプをつけて木の階段を登り始めました。

非常に日帰り登山者が多く、ペースはゆっくりとした登りとなり、半分眠った体にはうれしい。短い上がり下りの木道が多い道で、45分ぐらいで淀川小屋に着きました。小屋前広場はわりと広くテントが7から8張りぐらい張れそうです。また、淀川の水は、周りの風景を映し、清らかでした。ここで、朝食の弁当を広げるが食欲はない。食後、小屋北側にかかっている橋を渡り再び歩き始めました。ここからの道も多量の雨が降るうえに、世界遺産になって、オーバーユースで侵食が進み、いたるところに木の階段が付けられていました。味気ない山道でしたが自分もその一端を担いでいるわけですから仕方の無いことです。それにしても、取り付けるには多大な力が要ったことでしょう。



山道にはヒメシャラやコケ、シャクナゲ、ナナカマドなどの衣装をまとった杉などが目に付きました。見通しの利く尾根にくると、左手に豆腐を切ったような大岩がのっかっている高盤岳(トーフ岩)が見えてきました。右手にある展望台をやり過ごし、しばらく行くと、湿原に出たので花之江河湿原かと思いましたが、そうではなく小花之江河湿原と言うそうです。一頭のヤクシカがカメラを向けても一向に気にする風もなく悠然と草を食べていました。花之江河湿原の中心はさらに数分進んだところにありました。そこは赤茶色のコケで秋色。正面には緑の中に花崗岩や白骨樹が点在している屋久島特有の風景の山、黒味岳を眺めることが出来ました。1600mの湿原からみる黒味岳は聳えているというのではなくそこに立っている感じでした。



15分ぐらいで黒味岳分岐に着き、ザックをデポして往復。途中ロープが下がっているものの歩きやすい道で30分ぐらいで頂上に着きました。大きな切り立った花崗岩の山頂からの眺めはすばらしく、眼下に花之江河、北方向には屋久島の奥岳が広がり、西方向には栗生の浜、口永良島などが見えました。展望を堪能して来た道に戻り北方向へ進みました。



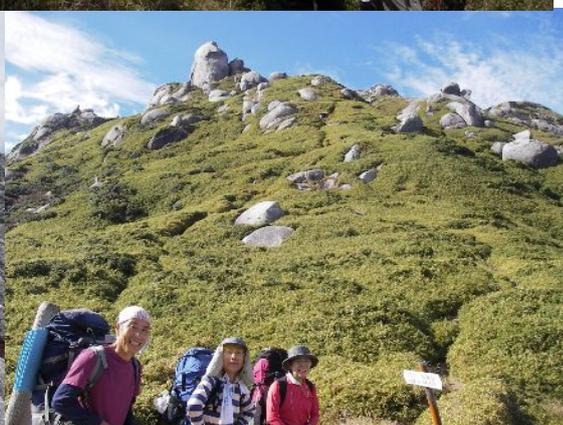
しばらく行くと、山道の右下に泉が見えてきましたが、流れ落ちてくる場所は確認できませんでした。そこからすぐに投石湿原、投石平、岩屋と続きました。ヤクザサが目立つようになると道は緩やかになってきました。しかし、悪天候時には厳しい地帯となるようで遭難碑が立っていました。

奥岳の展望を楽しみながらハイキング気分が進んでいくと澄んだたまり水の小さな湿地帯が現れました。(後で調べると、小楊枝川の源流らしいとわかりました。) さらにそこから下り、鞍部に来ると、小川が流れていて、そのササに覆われた水場をかがみながらたどって行くと、わりと豊富な水源があらわれ、ここで水を補給しました。

これからが、いよいよ宮之浦に向けてひと登りです。ヤクザサの道をあえぎながら登ると左手に大きな岩が現れました。栗生岳です。ザックを置いて寄り道をしました。頂上は平たい花崗岩の岩で休憩にもってこいのところで、宮之浦岳への登山道から離れているので静かな空間となっていました。大きな石が笹原公園のオブジェよろしく点在していました。宮之浦岳 12時42分着。頂上からは360度の展望で、海が見え、永田岳は目の前に迫っていました。お参りと記念撮影をすませ、昼食、コーヒータイムの時間を贅沢に小一時間とりました。

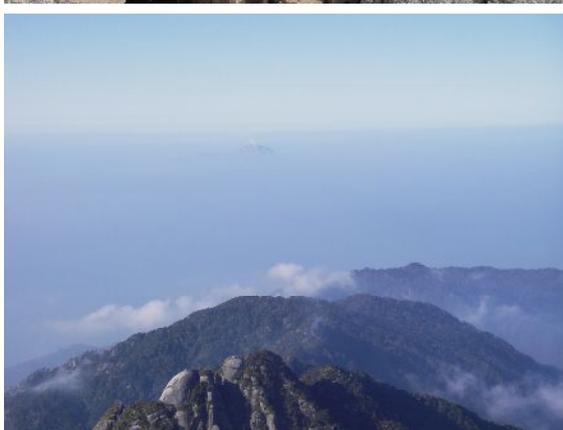


宮之浦岳から急坂を下り、焼野三叉路で新高塚小屋方面とわかれ、西方向の永田岳へ道をとりました。永田岳の頂上も大きな岩で、ここも眺望抜群。目の前に海が広がり島々が見



え、議論の末、口永良部島と俊寛が流された喜界が島すなわち硫黄島ということになりました。

1時間ぐらい歩くと鹿の沢小屋に着き4時となっていました。当初の計画通りです。そ



こは、豊富な水場が近くにある便利な場所でした。12名くらいのアルペンツアーの先客がいて私たちのために場所を開けてくれたので、テントを張らず小屋を利用しました。ツアーのガイドO氏は昭文社発行「屋久島の地図」の作者であることを添乗員から紹介され、記念撮影と相成りました。O氏は私たちがあまりにも時間をかけて着いたものだから、「明日は6時に是非小屋をたちなさい。」「バスの時間に間に合わないかもしれない。」「8時間はかかる。」とさかんに早立ちを進めるものだから、従うことにしました・・・？ 6時にはシュラフにもぐりこみ早い夜となりました。

11月5日

原生自然環境保全地域 石楠花の「花山歩道」

鹿之沢小屋 — 大石展望台 — 焼峰 — カスミ谷展望台 — 林道 — 林道入口
(6:04) (7:25) (11:28) (13:08)
大川の滝 — 栗生の浜に日没まで遊ぶ

ツアー一行より1時間早い6時4分、鹿の沢小屋を出発。小屋の横を流れる大川源流を横切り尾根に取り付きました。尾根は手付かずのシャクナゲの原生林で、中には小さなつぼみをつけている木もあり、原生林の雰囲気を楽しみながら歩いていきました。(この歩道には「花山歩道」と「保全地域」の看板があるのみで場所の表示は一切なく、地図で確認するほかない、本当に静かなところ。しかし、道案内の赤い布切れが頻りに下がっているの迷うことはなく、安心して歩けました。)1時間20分ぐらい歩くと大石展望台に着きました。

ここからはシャクナゲに代わって杉の大木が目立つようになりました。倒木の根っこの部分が6~8畳ぐらいもあるかと思われるものもあり、屋久島の自然のすごさに驚きです。倒木にコケが生え、そこにいろんな木の芽が着床していて深山の雰囲気を満喫しながら歩きました。花山広場で世界遺産登録後の保全地域の変化を調査していた、東大の大沢先生から『台風などで倒木すると、森の再生が進むので倒木などを「イベント」とよんでいる』という話を伺い、みんな納得。ハリギリの木も教えてもらい、とても、得した気分になりました。

調査隊に心引かれながらもそこを後にしました。焼峰はだだっ広い樹林帯で気をつけないと分からないところで

した。さらに下っていくとカスミ谷展望台らしきところに来たのですが秋の日差しが暑いので通り過ぎました。林さんとりえちゃんはしっかりとそこから栗生の浜を眺めたようです。

沢の音が大きくなり、山肌を巻くように降りていくと突然林道に出ました。時計は11時28分を指していました。1時間20分くらい林道を歩いて県道出合に出、13時8分、1泊2日の山行の終了となりました。

大川の滝をめめながら1時間30分以上のコーヒータイムをとり、さらに栗生の浜で夕日が海に沈むのを眺め、ゆったりと自然につつまれた豊かな時間を過ごしました。



11月6日

縄文杉往復

明るい秋の衣装を着た縄文杉はやはりすごかった。

大沢先生に縄文杉を見に行くと言ったところ「ふん」と笑われ、「花山街道で縄文杉を見たでしょう。」といわれたのですが、私の強い希望で川上さん、林さんも同意して日帰り山行で行くことになりました。りえちゃんはこの日帰るので3人の山行です。

荒川登山口まではバスで、ほとんどの登山者は日帰りガイドつきです。ガイドの話盗み聞きしたり、また、厚かましくも、質問までもしながら、屋久杉の知識を仕入れ、トロッコ道を歩きました。(若いガイドは私たちの質問を無視ですが、58歳の地元生まれの地元育ちで営林署に勤めていたというY氏とは会うたびに話をしました。人との出会いはすばらしい。)

大株歩道を歩くこと1時間20分。突然目の前が開け、天に突き出たようにのびている、明るい縄文杉が目に見え

び込んできました。着生しているヒメシャラや他の木々が紅葉していて秋の衣装をまとっています。樹高 25.3m、周囲 16.4m、でこぼこの幹を持ったこの縄文杉の風格は写真では絶対に感じ取ることの出来ないものでした。速く歩いたお陰で展望台にはそこその人しかいなかったのが寝転んで見上げたりもして、縄文杉と出会ってきました。とても満足。

帰りは夫婦杉を鑑賞しウイルソン株に再度入って延命水を汲み、トロッコ道では山田洋次監督「学校」の一場面を探しあて、沢に下りてトロッコ道を見上げたりしながら楽しみました。

楠川別れから辻峠までの道には屋久杉の倒木更新や切り株更新が多くみられ、オブジェの森の様相でした。なんでも、屋久杉は普通の杉より 6 倍の樹脂を出し腐りにくいので江戸時代の倒木がまだ残っているのです。川上さんはオブジェのような屋久杉に惹かれたようで何度もカメラに収めていました。

辻峠でお茶タイムした後、白谷雲水峡へ下りました。もののけ姫の森では苔むした木々が個性豊かに立ったり寝転んでいたりして……。雨のしずくが作り出した小宇宙に酔いしれました。雲水峡は私たちが屋久島に入る 2 日ほど前、大雨で下ることが出来ず一晩足止めをくらった登山者がいたということが納得できる地形で深い谷となっていました。後は 4 時 10 分のバスに間に合うように急いで下り、バス広場に 3 時 45 分到着。しかも幸運なことに安房まで車に乗せてくださった親切な人がいてすばらしい屋久島となりました。